

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2021年6月3日

No.20

組合：会社は昨年度黒字決算であり、組合員の期待は大きい！！
会社：現状は計画値を大きく下回っており状況は大変厳しい！

～ 2021年度 夏季手当第2回交渉報告 ～

中央本部は本日、第2回交渉を行ない2021年度夏季手当の要求の根拠を以下の通り主張しました。

- (1) 新型コロナウイルス感染症が拡大し、政府は「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」を発令し、感染予防策を講じているが終息の目途は立っていない。このような中でもJR貨物は指定公共機関の使命を果たすため、職場では精一杯の感染予防対策を実施し鉄道貨物輸送を支えている。その中心的担い手は職場で働く組合員であり、その労苦に報いるのは会社の責任である。
- (2) 今年度4月の収入状況は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けて国内需要が低迷し対計画では下回っているが、運輸収入は前年度比101.9%と回復している。対計画未達の原因は年度初の計画値が高いことを会社は明らかにしており、未達を理由とした手当抑制は決して許されず、業績に対する還元を行なうべきである。
- (3) 2021春闘の結果は先行き不透明を理由にベアゼロだったが、5月14日に発表された2021年3月期決算では単体で6,100万円、連結で14億4,900万円の黒字決算だったことから、組合員は夏季手当に期待している。会社は春闘交渉時に「業績還元は賞与で行なう」ことを明言しているが、期末手当は極めて生活給としての要素も大きく、業績に関わらず会社は生活給として支給するべきである。
- (4) 人事制度の一部修正が行なわれたことに伴い、昇給時期が7月に変更された。社会保険料が軽減されるメリットはあるが、基本給が3カ月間昇給せず都市手当や超過勤務手当も減収することになる。また評価制度に対する不安や不満がまん延しており、まだまだ定着していないことが職場に現れている。会社は人事制度導入時に「生き生きと働きがいのある制度を確立しよう」としてスタートしたが、不満を持った若年社員の退職が後を絶たない。優秀な社員の流出を防止するためにも夏季手当を満額支給すべきである。
- (5) 会社は新規採用を継続的に実施しているが、依然として要員が逼迫している。特に運転士の欠員が解決されず、職場の要員不足が原因で運転士を希望する人がいても中研に送り出せない。また中研に入所しても辞退する人や乗務員試験に合格できない人も散見され、状況を改善できていない。さらには老朽化した設備は改修されず、女性用の設備の充実が行き届いていない。「中期経営計画」「長期ビジョン」の推進は組合員の協力なしに実現しないことから、それを担う組合員に還元するべきである。
- (6) 以上の状況を鑑みて、計画達成にむけた組合員のモチベーションアップ、業績の還元、何よりも私たちにとって生活給の一部としての賞与である。よって、回答指定日には組合員の切実な声や奮闘に応えるべく誠意ある回答を要請する。

【次ページへ続く】

貨物労組の要求の根拠に対して会社は、「貨物労組の要求の根拠を真摯に受け止め、社内で議論をしていく」とし、以下のように回答しました。

1. 昨年5月を底に徐々に荷動きは回復してきていたが、今年4月25日には政府から3度目の緊急事態宣言が発令された。今年度収入計画はショートしており現時点で対計画△17億円である。ここ2週間余りで7億円近く悪化しており非常に厳しい状況である。
2. 新型コロナウイルス感染症の対策として、在宅勤務が行なえる職場では在宅勤務を行なっている。また職場ではアルコール消毒など感染防止対策を実施し、指定公共機関としての使命を果たしており、組合員の努力に感謝する。
3. 今年の春闘交渉時に「社員の労苦は期末手当で応える」と会社の考え方は示した。結果としてベアゼロという判断をしたが、賃金は人事制度で整備した観点から改善されているとの認識である。ベアの考え方については引き続き議論をしていきたい。
4. 人事制度を修正し、昇給時期を変更したことから3カ月間は昇給しないが、メリットはあるので協力をお願いする。新規採用については、2022年度採用が始まっており順調に進んでいる。会社としても運転士不足は認識しており、入所試験の在り方なども議論していきたい。女性設備も遅ればせながら準備をしている。

会社の考え方に対し、中央本部は以下の通り主張しました。

- (1) コロナ対策はまだ不十分であり、職場ではシーツの毎日交換なども実施されていない。職場からは除菌シートの配布などの要求が上がっており、引き続き感染予防対策を実施すること。
- (2) JR旅客会社は発足以来の大赤字であっても夏季手当は支給されている。その旅客会社より低額に抑えることは到底認められない。コロナ禍でもグループ会社全体での感染者数を41名に抑えられているのは、感染防止に家族を含め努力してきた結果である。
- (3) 今年度の収入計画は景気が回復することを前提に2019年度より高い目標が立てられている。7月期改定を行えば現状の対計画△17億円は出せない理由ではなくなる。対前年より収入が回復しているのは組合員の努力の結果である。
- (4) 春闘時には赤字決算になるといわれていた。しかし、2021年3月期決算で単体黒字化を達成したのは紛れもなく収入確保を中心的に担った組合員が頑張ってきた結果である。経営陣はそのことを認識し、黒字決算の評価を夏季手当で報いるべきである。

貨物労組の主張に対して会社は、「本日の要求の根拠を真摯に受け止め、次回会社としての考え方を示す。収入動向を踏まえ経営判断していきたい。」と回答しました。

本日の交渉以降いよいよ「闘争ゾーン」に入ります。要求の満額獲得にむけて、全ての職場から切実な声を結集させるため創意工夫した取り組みを要請します。中央本部は、その最先頭で奮闘していくことを申し上げ第2回交渉報告とします。

以 上

次回、第3回交渉は6月10日（木）です。